

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7回さがみはら児童厚生施設計画見直し協議会				
事務局 (担当課)		こども施設課 電話042-769-9227(直通)				
開催日時		平成28年5月23日(月) 18時00分~20時00分				
開催場所		相模原市役所 会議室棟2階 第3会議室				
出席者	委員	7人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	8人(こども施設課長、他7人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開 会 2. 議 題 (1) 取組内容について (2) 協議会の意見の反映について (3) その他 3. その他 4. 閉 会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( 〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言 )

### 1 . 開 会

### 2 . 議 題

#### ( 1 ) 取組内容について

事務局から資料 1 に沿って説明を行った。

#### 【こどもセンター・児童館の効果的な運営】

##### 《運営方法の充実》

「利用者」という表現は曖昧である。「子ども」と記載した方がいいのではないだろうか。子どもの参画という点では、運営委員会に子どもが参加するのもいいと思う。「子どもの貧困」については、例示として「子ども食堂」、「学習支援」などを入れてもいいのではないだろうか。

児童館は時間帯によって場面や利用者がくるくと変わる。乳幼児が多くいると中学生が自主的に卓球を中止するなど、遠慮して遊んだりしている。

施設に十分な広さがない場合、空間や時間で乳幼児と小中学生の利用を分けることも良いとは思いますが、小さな子どもの育ちを小中学生が身近に実感することも大事だと思う。

##### 《楽しみを与える遊びの充実》

基本的に利用者、子どもがサービスを選択する主体者であり、自らがその場を楽しくしていく、充実させていくことが必要だと考える。「与える」、「提供を行う」という表現ではない方がいいと思う。

主な取組としての「楽しみを与える遊びの充実」と、取組内容としての「来館したくなる多様な遊びの充実を図る」は、入れ換えた方がよいのではないか。

相模原市として児童館やこどもセンター、児童クラブ、放課後子ども教室をどのような位置づけにするのかを明確に示した方がよいのではないか。目的をもった施設運営をしないと課題は見えにくくなるもので、逆にその部分をしっかりと押さえれば、職員は施設の中で少しずつでも育っていくと思う。

子どものための施設はこのような施設であるべきだ、という理念は必要であると思う。その理念に基づいて、見直すべき項目や追加すべき項目が見えてくると考える。学校の理解を得るためにも、何のために行っているのかという理念は必要だと思う。学校の助けがないとより良い運営は難しいので、意見交換をする仕組みが必要である。

## 【児童クラブの待機児童の解消】

### 《民間児童クラブとの連携強化》

民間事業者に市立児童クラブの運営を委託するためには、委託費の積算基準が必要になるが、現在の運営費で積算した場合、引き受ける事業者がいないのではないだろうか。まずは財源の確保や仕組み作りが必要であると考えます。

職員や市立児童クラブの利用者、民間児童クラブの代表だけでなく、公共に関する専門家や財務・行政運営に関する専門家等の会議体を組織して、どのような観点で委託を進めるのかについて検討することが必要だと思ふ。

## 【児童クラブの施設環境の向上】

### 《学校との連携の充実》

学校の先生と密接な情報交換ができる関係を結ぶことが最も重要であり、運営していくためには欠かせないことである。具体的に誰が学校と連携していくのかを考えなければならないと思ふ。

放課後の子どものあり方について、基本指針が必要ではないだろうか。また、その指針については学校と一緒に作る必要があると思ふ。それぞれの立場から、具体的な意見を出し合う場があり、重要なことや必要なことが項目として挙げられれば、どこの学校とも連携していけるのではないだろうか。

いろいろな事業を実施し、その都度、職員間で反省会を行っているが、評価・検証が十分には行われていないと感じている。計画的な取組や、第三者評価、ガイドラインの導入が必要ではないだろうか。市の福祉施策は児童に対するものだけでなく高齢者や障害者に対するものもあると思ふが、評価は行っているのか。

福祉施設に対して法令に基づく指導監査を行っている部署はあるが、現在、児童クラブについては行っていない状況である。

評価は三層の構造となっている。まず、コンプライアンスがあり、それが遵守されないと制裁が課されることがある。次にあるのは第三者評価であり、それは質の向上のための仕組みである。さらにその評価が公表され、利用者が選択するというのが三層目である。

理念となる指針、ガイドライン、第三者評価と枠を作るためには、費用をかけていく必要がある。費用をかけずに評価を曖昧にしていくことをよしとするのか、費用をかけて成果をきちんと公表していくのか、どちらかを選ぶことになると思ふ。

児童クラブと学校は情報交換だけでなく、お互いに理解し合うことが重要であると思ふ。児童クラブ等の施設がどんな理念を持って運営されているのかわからないと、人と人との関係になってしまい、単に個人の考え方の相違として処理されてしまう。組織と組織で理解し合い、話し合えることが必要であると思ふ。

学校の敷地外にある児童クラブや児童館の場合、どのようにすべきなのだろうか。保護者が両方をしっかりと理解してもらうことが必要ではないだろうか。

学校内にある場合は、子どもにとっては同じ空間なので切り離すことはできない。何かあった場合、学校、児童クラブ、保護者と三者で話さないと解決が難しい。

学校との連携は大切だと思うが、物理的に場所が離れている場合、どこまで連携したらいいのかのイメージがつかみにくい。

学校ときちんと連携できていない児童クラブが多くなることは心配である。

放課後の子どもたちは様々であるが、いずれかの学校とはつながっている。しかし、学校とは関係ない児童クラブの職員に対してだからこそ、子どもが言えることもある。問題があった場合に、どういうルートでその問題を共有していくかが課題であると思う。学校と児童クラブ等が、課題を共有できる場が必要である。

放課後のような学校の活動以外の時間で見える子どもの姿、子どもの育ちについて、情報共有できることは大切であり、調査研究、事例研究も必要であると思う。

学校には、学校での時間を過ごす子どもも、児童クラブや児童館等で放課後の時間を過ごす子どもも、同じ子どもだということを認識してもらいたい。大きな組織のレベルでつながりを作るとともに、地域ごとにつながりを作るという形で、段取りよく行える仕組みも必要だと思う。「相模原の子どもを育てる」という点で、学校・教育委員会とつながっていくための政策があった方がいいと考える。

学校、教育委員会、児童クラブ、児童館とそれぞれが具体的に動いているが、その間をつなぐ人材や仕組みが必要だと思う。組織体だけではなく、仕事として担っていく人を置くということである。また、学校や教育委員会と児童クラブや児童館がつながりを作ることによってメリットがある、ということを知ってもらうことが重要であると思う。

教育委員会と連携していくことが必要だと思う。個人の価値観でぶつかるのではなく、その子どもにとってどのような対応をするのがいいのか、一致できる点を見出せる人材が必要であると感じている。

運営委員会に小学校も参画しているので、学校に理解がないわけではないと思うが、うまく広げていければいいのではないかなと思う。

学校の先生と異なり児童クラブ等の職員は権威が低いと感じているが、子どもとは何でも言える関係になれる反面、言うことを聞いてくれないという二面性があると思う。意図的に敷居を低くしつつ、子どもの声を引き上げることが必要だが、敷居が低いだけの職員もいるのではないかな。職員の質が求められており、処遇に関してはお金をかけるべきだと思う。

放課後の子どもの様子を知ることが、学校にとってどのようなメリットとなるのかを見せられるようにすることが大事であると思う。

## 《保護者とのコミュニケーションの充実》

各施設がインターネットを活用し、情報提供や情報共有を図ることもできるのではないだろうか。

保護者は安全に敏感になっているので、私たちの児童クラブでは無線を導入した。また、入退室時のメール配信は、保護者の安心につながっている。市立児童クラブでは、経費的な面で導入が困難かもしれないが、費用負担を保護者にしてもらい、保護者の満足度を高めるためのオプションのような形で取り入れても面白いかもしれない。施設の充実を図り、安心につなげるという視点も必要だと思う。

保育所では保護者への支援として、子どもたちの状況を保護者に連絡帳や掲示板で伝えていると伺ったことがある。

## 【指導員等の配置・勤務条件等の見直し】

非常勤職員の場合は、子どもの日常的な変化を把握することが難しくなると思う。子どもは施設内にいる時だけ見守ればよいものではなく、一日の生活をどのように見守るのかという視点で受け入れることが必要であり、そのためには職員の処遇を考えることが必要であると思う。

責任をもって、子どもの遊びや発達を捉えて支援していくためには、指導員や補助員を増やす等の人員配置も基本的な課題であると思う。一方で、勤務時間が短い補助員にどこまで専門性を求めるかは課題であると感じている。

学校は先生同士ですら5分間も話し合いができないほど忙しい状況と聞いたことがある。児童館やこどもセンターが、学校とどこまで連携できるのかは、課題があるように感じている。

「どういう施設にしたいのか」をそれぞれの施設が考えるためには、「市は子どもための施設をこのように考えます」という理念を共有することが必要だと思う。

きちんとした理念がないと意識の低い職員が増えてしまうと思う。また、地域のニーズにどれだけ答えるのかという視点も重要である。他市では地域や子どもの意見を取り入れて、施設を絶えず変化させている事例もあると聞く。地域にどれだけ必要とされるかは重要だが、意識が高い職員が入る仕組み作りが必要だと思う。

相応な賃金とやりがいのある仕事にすることで、職員の意識が向上するものだと思う。また、個々の施設が実践している事例の共有も必要であると感じている。

「問題の発生を予防する」ということが大事であると思う。学校の先生とは違う接し方や関わり方ができることは、問題の発生を予防するためにも非常に効果的で、組織的に連携することで更に予防できると思う。

専門性を持った人が一定の地域をカバーするという視点がどこに記載されているかわかりにくい。

陽光園の巡回指導に集約されたのではないだろうか。

学校にいるスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの予算枠の中で、どこか1箇所にいるわけではなく、たとえば市役所内にいて集中的に色々なことの責任をもって考えていく役割をもつ人材は配置できないのだろうか。

#### 【児童クラブにおける障害児受入等の推進】

様々な児童が利用することが前提としてある中で、新規整備を行うならば一定の構造化した形で整備するのがいいのではないか。たとえば、図書室については静かに読んでいる図を示す等が考えられる。遊び方については、各施設の運営のあり方によると思うが、設計の段階で構造化という視点を持つ、つまり、子どもがひと目でわかる構造にすれば、よりよい子どもの動きに導くことができると思う。

基本的には新規の施設整備は行わないということでもいいのか。

既存施設の改修、活用を進めるということである。

設計の段階で意見が反映されるように、専門家を入れた会議体を作った方がいいとするのか、一定の基準を作るのがいいとするのかで方法は異なると思う。

基準を作る場合は人によって水準が変わることはないが、民間事業者にとっては新規参入の妨げに感じてしまうこともある。一方、会議体を作る場合は、その時々に応じたより良いものを作るための意見ができる。設計の段階で業者に意見が言うことができ、責任を担う会議体を作れば、実際に建物が建つ前に修正をすることができると思う。

一人ひとりの障害の状況に応じた改修ができれば保護者も安心すると思うが、その児童にとって何が重要かということを経験者で考えていくことになると思う。

障害児受入の推進という観点から考えると、施設の改修だけではなく、職員にも専門性や保護者とのコミュニケーション能力が求められる。

「『視覚支援』を含むバリアフリー」という表現は再検討した方がいい。

障害児については情報共有がひとつの課題となる。他市では、施設の職員が自ら支援計画を立てることができるようにするため、療育の専門家を講師として研修を行った。そこでは、学校、児童館、児童クラブ、ファミリーサポートなど、その子どもに係わる大人が参加し、今後自分たちがどのように対応していくべきなのかを考えられるようにするという研修だった。一般的な研修だけではなく、具体的な子どもの支援計画を立てられるような研修が必要であると思う。

#### 【その他】

資料の中には組織体が複数描かれているが、それぞれの関係図が不明瞭である。図として示した方がいいのではないか。

行政が全てを行うのではなく、様々な立場の人を巻き込んだプロジェクトとして、色々な事業をやっていくこともできるのではないか。

( 2 ) 協議会の意見の反映について

協議会としてまとめて意見を言える場ではない。次回は、施策等について文章化したものを資料として示せるようにしたい。

( 3 ) その他

事務局から資料 2 について説明を行った。

3 . その他

次回の会議は、6 月に開催を予定する。

4 . 閉 会

さがみはら児童厚生施設計画見直し協議会委員出欠席名簿

(五十音順)

氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
岡 健	大妻女子大学家政学部児童学科 教授	出席
金 子 和 蔵	相武台第3児童館 館長	出席
神 谷 哲 郎	ペパーソンインターナショナル株式会社 代表取締役	出席
郡 秀 一	公募市民	欠席
高 野 朝 枝	相模原市立小学校長会 委員	出席
羽 賀 厚 仁	根小屋小学校放課後子どもプラン 主任児童育成指導員	出席
平 正 充	二本松こどもセンター 館長	出席
堀 田 剛	相模原市学童保育連絡協議会 会員	出席
若 林 由 美	相模原市立小中学校PTA連絡協議会 副会長	欠席